

## 雨宮の御神事：国の重要無形民俗文化財（S56）

「獅子踊り」とも呼ばれる「雨宮坐（あめのみやにいます）日吉神社」の春季例大祭で、御神事の起源は定かではないが500年以上の伝統を有する。

3年に一度、4月29日（みどりの日）に、現在は雨宮区だけで行われている。



「昔、生仁の豪族が浮気をし、それを恨んで死んだ妻の怨霊（おんりょう）のたたり一田畑の荒れ、疫病の流行一を鎮めるために祭りが始まった」とされている。

怨霊を踊りやおはやしで盛大に送り出すというもの。これに田畑の豊穰の願いも加わった。

御神事では行列が方々を回り（御神事踊り）、紙飾りを剥がし（化粧落とし）、その後、生仁川の「斎場橋」橋桁で4人の獅子が宙づりになって水面を叩き（橋懸り）、御霊送りをする。

最後に唐崎社で神輿の渡卸し神踊り（山踊り）が行われ、社前に戻って終わる。

### ◆雨宮坐（あめのみやにいます）日吉神社 明治元年（1868年）現社号に改まる（千曲市雨宮）



天つ神を祭るので「天宮」と称された。

（\*天つ神：「天井の国」高天原の神々とその系統）

祭られている神々：大己貴（おおなむち）命（大国主命）・少彦名（すくなひこな）命…国土経営、農業の神

・大山咋（おおやまくい）命…（7C中頃）治山治水の神として、滋賀県大津の日吉（ひえ）神社から招く。この合祭によって、社号を天ノ宮、後に雨宮と書き改め、日吉大権現（だいがんげん）・日吉山王宮とも呼ばれていたが、明治元年に現社号となる。

本来の姿は、農耕の神であり、雨乞い、水厄除けの神として祭られた原始的な神社だった。

天文22年（1554）、第1回川中島合戦の折には武田軍の本陣となった。

当時の雨宮摂津守や清野公などの地方豪族や松代藩士に崇拜され、社領などの寄進を受けた。